菱合資の総理事になった鎧を見ると身震いしたと世評された各務謙吉翁に援助されて昭和七年高畑会長、永井幸太郎長老によって日商岩井の創立は成り、西川政一氏の力量とその人間性、信用によって今日の大組織に大成したことなどと共に、これも同郷の大先輩の楓英吉氏の日本発条の日本に冠絶する特殊事業など一介の小僧出の片々たる私如きの言及するところではありませんが、唯惜しくも志業央ばにして病没せられた楓氏の後を継いだ坂本寿君は私と小学校六年間を同席した竹馬の友で、少年時から純情、温厚、篤実、今日の大成を成した誘因は嬌らず、昂振らぬ彼の性行と、楓氏の恩義に酬いて積年の事業企画、経営に対する無限の研讃の尊い結実であると思いますし、郷里第一の成功者となったのは勉学時代賢母を失い、一人愛妹と相当の辛酸を体験したことが却て楓氏の如き伯楽に恵まれて好運にも遭遇し、今は亡き鉄の井上清君にも愛育されて鉄そのものも判り社全体が坂本君の徳風に微動もせぬ様に統率されたと信じます。

楓未亡人喜和恵夫人は坂本君の忘恩の徒ならぬを口を極めて賞讃しています。相会わざる四十年、蝶を追い、麦笛吹きし少年の日よ。嗚呼、坂本君の神戸本店時代の先輩で戦時私の住む八尾市山本に相当期間住んで親交し、畏兄する筒台出の久琢磨兄は土佐のいごそう大宰相臣茂の親玉の吉田茂翁を小型にした凡そ「たつみ」会中でも全く異色の存在で神格者田宮嘉右衛門翁、石井光次郎翁の幕下で名門神戸高商に学生相撲黄金時代を造り上げた功労者で、合気道、空手など併せて十段の猛者ではあるが、長い若磐湯が余りにも過ぎて神戸時代高血圧症で年余を近代医学では不治の疾患で休養したが自身で難業苦業し、特別の工夫創業で全く異例な体調に迄引き戻して現在東京の二番目愛媛の許で老後を平安な生活のみか、道場を構えて多数の弟子を指導し、多少のハンデを付けて「たつみ」会ゴルフ会でも優勝したりして鼻をうごめかしています。

朝日時代のことも詳らに知っているが、文章も仲々達筆でもあり、下僚を愛し慕われるが、正論を力説して、上司に楯付き、無論航空、厚生部長の幹部ではあったが、大幹部に昇進など顧慮せず社内心ある社員の親分的存在であった。品悪く久琢磨兄を一言にして月旦すればいいたいこといいの別称でないか。

不幸にして土佐の名門から結ばれた愛妻に死別されて二人の愛嬢は揃って秀才であるが、唯一久兄には頭の上らぬ実姉があって、久兄の今日あるその実姉の賜であると思う。私は劇、仙台萩の政岡と称していたが字義通りの賢姉だった。久兄の長寿を祈るや切。

それ器かたからずんば物を容る能わざるがゆえに——。

小僧時代の兄事した伊達信雄君は早朝店内多数の新聞の仕分担当でミニヨンの歌を唄いながら迅速に捌き、私は同じ全店内に配る樫炭を大きな鉄筒に投じて酷い熱気に堪えて頬をほてらして社員来社迄に片付けていた。喜寿の挨拶にも寸言を鋏んだが、伊達は自分の同国の出身で今倫敦の鈴木支店長として将来大鈴木を背負うて立つ高畑誠一氏があると常に恒に誇負して己まなかったが、大正七年春私が退社した直後、彼も望みを以て退し、岡山の私立中学の編入試験に応じたと在高知の下屋の私に通じて来、折返して「長堀橋畔の半歳の慕情忘れじ。賢兄の垂教セネカの哲言も相同じ。今や鈴木商店は曰く政商、曰く奸商、曰く何と褒貶相央ばして依然天下に冠たり。後来孰れの日かお互に志成りて世に立って再び鈴木に拾われて君の許に下僕として仕え度し。君と僕と中国の古語の賢愚相隔てる数千里なるも僕も又君をこころのカメラに映像して必ず精進する。お互に物的に不遇なるも刻苦して大成を千祈し万願して己まぬ。健康をお互に第一にねと——。果して伊達は入手したかどうか。二人は以来パッタリと交信を断つ。私は翌八年、鹿児島に距れ、伊達は六高から大正十五年赤門経済を出て、あれ程崇敬した高畑会長の懐には還らずに、日立製作所に入社して高知市商先輩の瀬戸津英一兄と同窓で筒大も同期で最優秀で卒業して久原に入り、日立に移り更に大阪造船の重役になった黒岩寅喜氏兄の下で勤め、二、三年前定年退職して、令息と港区で同社の下請けの工場を経営していると風の便りで聞いた。有物にして天変、これをしも人生とは言うか。

涕汁を垂らして歩く商歩借り

李　方子女史を迎えて

李　方子女史は御承知の通り我が皇室梨本宮家から韓国李王妃に嫁せられたお方であらされる。背の君亡きあとは韓国内に於て国民の為に身体障害者の救済に寧日無く全力を捧げていられると承ったが、その御偉徳の程は量り知れないものがあります。

柳田　義一先生

拝啓

立夏の候　日本では早くも、梅雨前線が北上しつつ緑穂の頃と思いますが、私は日本訪問旅行を　月　日に終り引きつづき台湾を訪問して、帰国致しました。

日本滞在中は、各県の知事様、市長様、商工会議所皆様、日韓親善協会皆様、議会議員の皆様、駐日韓国領事館、民団の皆様に、御目にかかる事が出来まして、誠に有難う御座居ました。

私の今回の、日本訪問旅行は、韓日両国の友好親善を深めると共に、私が韓国で運営する身体障害児の福祉施設「明暉園」の御理解と、それに供なう新築移転の御協力をお願い申し上げる為に「明恵会」の活動を推進する事になりましたが、各県地元の皆様方があたたかい声援を下さり、充分な成果を得ました事に心から感謝申し上げます。今後共、積極的な御協力、御支援の程をお願い申し上げます。

そして、一日も早く両国の皆々様のあたたかい協力によって、明暉園新築移転が完成して、次代を背負う若い人達に、この事業を引き継ぐ事によって、本当の両国友好親善の実を残す事と確信する次第でございます。

在日僑胞の皆様が、訪韓の時、日本の皆様の来韓の時には是非私の住居であります楽善斉へ、お立寄り下さいます様心からお待ち申し上げます。

最後に、韓国ソウルの空の下より、皆様と御家族様のご健康とご発展をお祈り申し上げ、帰国のごあいさつと、お礼のごあいさつにいたします。

かしこ

一九七八年五月二十一日

韓国ソウル特別市鍾路区臥龍洞一一一

昌徳宮　楽善斉

韓国明暉園理事長

韓国明恵会名誉会長

李　方子

▷李方子さん、劉日海師、柳田義一（右から）

方子女史には去る三月二十三日午前十時頃そぼ降る雨の中を市内芋川谷法徳寺にお立寄りになり劉　日海師の読経にて背の君李王の追善供養をいとしめやかに行わせられた。法要僧山内役員の一同と親しく方子女史を囲みての盛大な斉を喜ばれ和かな打ちくつろぎに興ぜられ御満悦の呈を拝した。筆者も前からの当寺との関係上茲に招かれ真近かに方子女史を拝し談笑を交えさせて頂いたことは光栄の至りであった。

編　三、二三記

表紙説明

名作

小振り練上茶盌

内径　一〇センチ

高サ　七センチ

島根県温泉津

椿窯　荒尾常蔵作品

京都　河合憲次郎高弟

（編者収蔵）